

(別添3)

【東松島市】
校務DX計画

学校を取り巻くICT環境が急速に変化する中で、ICT環境の整備をはじめとした教育の情報化の更なる推進・充実を図り、次代を担う人材の育成を目指した「東松島市教育振興基本計画」において、校務DXへ向けた取組として、以下のとおり示している。

●教育施策1-2 ICT等の先進的な取組の活用

(1) ICT(情報通信技術)を活用した教育の推進

学校情報化推進事業・公立学校情報機器整備事業(GIGAスクール構想)

これまでの取り組みと成果	これからの取り組み
○児童生徒の情報活用能力の育成 ○教職員の効果的な校務運営を行うための学校ICT機器等の整備 (成果) ICT機器等の積極的な活用により、児童生徒の関心と理解力を高める授業運営や校務の省力化と情報活用能力の育成	【事業継続】 ○ICT機器等の積極的な活用と教職員に対する研修 ○児童生徒の情報活用能力育成 ○ICT機器活用による効果的・効率的な校務の実施

(1)クラウドサービスの活用

①現状及び課題

本市では、「Google Workspace for Education」を導入し、児童生徒の出席管理・課題等の配信・職員間の情報共有等をクラウドサービスを用いることで、業務の効率化及び時間短縮、ペーパーレス化を図っている。

しかしながら、学校間において活用の格差が見られる点が課題となっている。

②課題の解決へ向けた取組

今後、活用が進んでいない学校の現状と課題を把握するとともに、引き続き好事例や先進的事例に関する情報を提供し、校務DXが推進されるよう継続して支援していく。

(2)FAXでのやり取り・押印の見直し

①現状及び課題

本市では、「Google Workspace for Education」を活用し、学校間でのやり取りや教育委員会と学校間でのやり取りの効率化を図っているもの。

しかしながら、一部行事等においてFAXを使用して連絡を行っているケースや押印による事務処理もある。

②課題の解決へ向けた取組

教職員においては、ペーパーレス及び業務効率化の観点からICT機器の積極的な活用促進を図るほか、ICT機器の教職員向け研修会を実施することで、FAXでのやり取り・押印の見直しを図ることで業務効率化を推進していく。

(3)校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の廃止

①現状

本市で導入している校務支援システムは、児童生徒の名簿等の情報入力を手作業で行うことも可

能であるが、原則として CSV 形式で作成した個人情報ファイルを取り込んで登録することとしている。個人情報ファイルの取扱いに十分留意し、今後も継続して行っていく。

(4) 次世代の校務システムの導入

①現状及び課題

本市では、児童生徒の個人情報を取り扱う校務ネットワークを構築することによって、児童生徒の管理等効率化を図っているものである。

文部科学省が推奨する校務系・学習系ネットワークの統合やクラウド環境での校務実施については現在検討段階である。

②課題の解決へ向けた取組

校務系・学習系ネットワークの統合及びクラウド化については、国で行っている次世代の校務デジタル化実証事業の成果等先進事例を参考にしながら、導入の検討を進めていくものである。